

《種子消毒剤》

前回の実のり新聞で、種子消毒について紹介しました。今回は、実のりおすすめの種子消毒剤についてご紹介します。



＜おもな薬剤と適用病害虫＞

	ばか苗病	いもち病	ごま葉枯病	もみ枯細菌病	苗立枯細菌病	褐条病	苗立枯病 (リゾープス菌)	苗立枯病 (トリコデルマ菌)	苗立枯病 (フザリウム菌)	イネシンガレセンチュウ
スポルスタックスター+SE	○	○	○	○	○	○				
スポルタック乳剤	○	○	○							
トリフミン水和剤	○	○	○							
タチガレン液剤			○						○	
ベンレート水和剤	○	○							○	○
ダコレート水和剤		○					○	○	○	
スミチオン乳剤										○

＜使用方法＞

薬剤名	適用病害虫など	希釈倍数	使用方法	使用回数	使用時期
スポルスタックスター+SE	ばか苗病・ごま葉枯病 もみ枯細菌病・褐条病 苗立枯細菌病・いもち病	20倍	10分間浸漬	1回	浸種前
		200倍	24時間浸漬		
		7.5倍(乾燥種もみ 1kg当り希釈液 30ml)	吹き付け処理 または塗沫処理		
スポルタック乳剤	ばか苗病・ごま葉枯病 いもち病	100倍	10分間浸漬	1回	浸種前
		40倍(乾燥種もみ 1kg当り希釈液 30ml)	吹き付け処理 または塗沫処理		
トリフミン水和剤	ばか苗病・いもち病 ごま葉枯病	1000倍	24時間浸漬	1回	浸種前
		30倍	10分間浸漬		
		300倍 乾燥粉重量の0.5% 7.5~15倍(乾燥種 粉1kg当り希釈液 30ml)	種子粉衣 吹き付け処理		
ダコレート水和剤	いもち病 苗立枯病(リゾープス菌) // (トリコデルマ菌) // (フザリウム菌)	400倍	育苗箱 (30×60×3cm 、使用土壌約 5L)1箱当り0.5L を灌注	1回	播種時
		400~600倍		2回以内	
		800~1200倍	育苗箱、1箱当り 1Lを灌注		
スミチオン乳剤	イネシンガレセンチュウ	1000倍	6~72時間浸漬	1回	播種前
		100倍	乾燥種粉重量の 3%量の希釈液を 吹付け		
		1000倍	育苗箱1箱当り 500mlを散布		

＜水稻育苗箱処理剤＞

長い効き目が期待できる水稻育苗箱処理剤は、水稻栽培の病害虫防除において本田防除を削減できるという大きな労力の削減に結びついています。しかし、育苗箱状態で散布する農薬の量は大変多くなるため、箱の周りにちょっとこぼしても地面に落ちている量は思った以上に多くなります。また、育苗期の灌水作業により散布した薬剤が土壌に流れ込む可能性もあります。このため、**薬剤が土壌にしみこまないような対策をしっかりとることが重要**です。

- 育苗期に農薬を散布する場合は、箱の外にこぼれないよう丁寧に行う
- 育苗箱の下に不浸透性のビニールシートなどを敷き、薬剤が土壌にしみこまないようにする
- こぼれおちた薬剤は、掃き集めるなどして土壌や水系などに影響の内容に処理する



※水稻育苗を行った後の同じ場所で、野菜などの他の作物を栽培しないようにしましょう

育苗作業が終わった後の圃場で野菜など他の作物を栽培すると、育苗作業時に土壌にしみ込んだ農薬が、作物に吸収されてしまいます場合があります。その結果、防除で使っていない農薬が収穫作物から検出されるなど、残留農薬として問題が生じる可能性があります。

※箱処理剤については、5月号で詳しくご紹介いたします。